

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和7年2月21日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会 派 名 市民連合議員団

代表者名 板谷 昌慶



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	板谷 昌慶
出 張 先	札幌市
期 間	令和7年1月29日（1日間）
用 務	ポートセールス2025 兼 第3回釧路港物流ワーキング
調査（研修） 結果等の概要	別紙参照
備 考	

注）1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

「ポートセールス 2025 兼 第 3 回釧路港物流ワーキング」視察報告

(報告担当：板谷 昌慶)

令和 7 年 1 月 29 日 (水)、札幌市民交流プラザにおいて開催された、「ポートセールス 2025 兼 第 3 回釧路港物流ワーキング」参加しましたので、報告いたします。

「ひがし北海道を支える結節拠点へ。荷主や物流業界に選ばれる港に。」をテーマに、釧路港の物流強化の現状と課題を確認することを目的とし、様々な角度からの意見交換が行われた。

中でも、物流の 2024 年問題や脱炭素化の進展により、釧路港の対応と発展が重要視されている観点から、以下の項目について協議を行った。

○釧路港の現状と課題

北海道の物流は道央圏に依存し、ひがし北海道は貨物の最終到着地となることが多い。しかし、この構造は脆弱であり、ひがし北海道が自立した物流システムを構築する必要がある。釧路港の物流機能強化は、地域経済の発展にもつながる重要な施策である。

○施策展開の方向性

(1) 高規格内貿ユニットロードターミナルの整備

- ・ 耐震強化岸壁の整備
- ・ シャーシ・コンテナヤードの整備とセキュリティ強化
- ・ コールドチェーン対応 (リーファープラグ設置)
- ・ LNG・水素・アンモニア燃料供給施設の整備

(2) 外貿コンテナターミナルの高度化

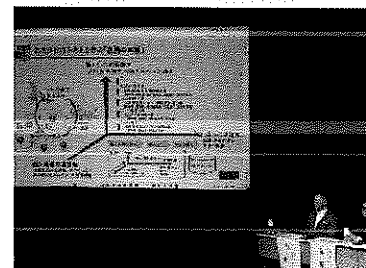
- ・ フィーダー船岸壁の整備 (国際コンテナ戦略港湾との接続)
- ・ コールドチェーン対応施設の拡充 (リーファープラグ・小口混載貨物施設・積替施設の整備)
- ・ コンテナ搬出入の効率化 (OCR 技術、システム連携)

(3) スtockポイントの形成

- ・ 貨物積替機能を有する倉庫群の形成
- ・ 冷凍・冷蔵倉庫の整備促進
- ・ 鉄道貨物との共用

(4) 高規格道路の整備促進

- ・ 道東道 (釧路別保 IC ~ 温根沼 IC) の整備促進
- ・ 国道 240 号の改良



- ・ 道東道 本別ジャンクションの改良検討
- ・ 道東縦貫道路（美幌町～標茶町）の早期整備

また、モーダルシフトの取り組みと実証実験についても報告があった。

物流の効率化と環境負荷低減を目的に、イオン北海道（株）が道央圏の配送センターから釧路市内の店舗へ輸送する日用雑貨をRORO船で苫小牧港から釧路港へ輸送し、そこから各店舗へ配送する実証実験を実施。2024年10月から本格運用が予定されている。

釧路港の将来ビジョンとして、「物流」「賑わい・交流」「環境・エネルギー」「防災」の4つの方向性が示されている。令和8年度には15年ぶりの港湾計画改訂が予定されており、持続可能な港湾運営と地域の発展に向けた取り組みが進められている。

釧路港の強化は地域経済の活性化に不可欠であり、今後も施策を進めることで、荷主や物流業界に選ばれる港湾へと発展する可能性がある。本視察を通じ、釧路港の将来に向けた明確な方向性を確認できた。関係機関との連携を強化しながら、持続可能な物流拠点の形成を推進することが求められると考えます。

